

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 一 年 一 月

正 月

日本中の子ぎもが、揃つて、一齊に、一つ宛大きくなつたと思ふと、心の底からほゝ笑ましくなる。

正月は、誰れにも齡を一つ宛持つて來て呉れたのであるが、子ぎもら程、それを喜び受けたものはあるまい。あの可愛いゝ指で、自分の新らしい齡を數へてゐる。あの可愛いゝ口で、自分の新らしい齡を誇つてゐる。しかも、正月が公平に分けて呉れた齡の中でも、子ぎもらの分は黄金の特製で、これもこれも一つとして輝かしい光りに輝き光つてゐないのではない。

それにしても、日本中の子ぎもが貰つた、その輝しい齡の總數は幾つになるこゝか。盛つても盛つても盛り切れない、その盛んな數を思ふ時、亦一段と嬉しくなる。

誠に、なんこいふ、いゝ正月なのであらう。

(倉橋惣三)